

令和6年 1月18日

大河原町議会議長 岡崎 隆 殿

文教厚生常任委員会

委員長 佐藤 巖

所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、調査中の案件について下記のとおり調査を終了したので、大河原町議会会議規則第76条の規定により報告いたします。

記

1. 開催の日時 令和 6年 1月17日(水) 午前10時
2. 開催の場所 金ヶ瀬小学校
3. 出欠委員の氏名 佐藤 巖 大沼 常次 秋山 昇 山崎 剛 丸山 勝利
出席委員 中村 淳 佐藤 暁史
欠席委員 なし
4. 説明のため出席 金ヶ瀬小学校 校長 伊藤 直樹
した者の職氏名 同 教頭 丹野 憲
教育総務課 課長 櫻田 尚
同 課長補佐 小野寺 堅一
5. 議会事務局の出 議会事務局長 齋 修
席職員の職氏名 同 主事 佐藤 邦彦
6. 所管事務の調査事項
 - (1) 金ヶ瀬小学校の現状と課題について(学校からの説明)
 - (2) 学校の施設設備等の現況について(現地確認)

7. 調査の内容

(1) 金ヶ瀬小学校の現状と課題について

① 金ヶ瀬小学校の本年度の重点努力事項について

■ 確かな学力の育成

- 主体的、対話的な授業の実践に努めている。
- 全国学力状況調査では全国平均を大きく上回っている。
- 蔵書数は6,696冊。年間18,386冊の貸出しがあり、児童一人当たり66冊の貸出しとなっている。
- タブレットの活用については、児童だけでなく教職員も大いに活用している。授業では、まとめの時に活用する場面が多い。

■ 豊かな心と志を育む活動の充実

- 7月の授業参観日には「全校道徳の日」ということで、全学級が道徳の授業を行い、保護者に参観してもらっている。

■ 健やかな体・体力づくりの充実

- 運動能力調査では全国の平均より下回っている項目がある。特に立ち幅跳びに課題があったが改善しつつある。

■ 学校管理運営上の課題

- 防犯対策については、不審者の校内侵入防止のため、通用口等を閉鎖または車止め等を設置している。防犯カメラはあるが、手動のため運用面で課題はある。
- 危機管理マニュアルを見直し、実際に即したものに改めた。

■ 職員の働き方改革の進捗状況

- 超過勤務している職員は、45時間以上が毎月4、5名いる。
- 定時退庁日というものを学校が指定するのではなく、各個人が週に最低一回自ら決めて行動するよう呼び掛けている。
- モジュールの時間割の実施。朝、15分の授業を週3回実施することで授業1コマを実施したことになるので、試験的に行っている。

■ いじめ、不登校の実態

- いじめは1件。認知にあたっては毎月、児童にアンケートを実施している。
- 不登校については2名。不登校相当は3名。

■ 施設設備の現状

- 来年度、校舎の外壁の塗り替えの予定がある。

② 説明を受けての質疑

- Q 「堤神楽」の衣装の引継ぎに問題はないか。上級生から下級生に対してのいじめめ的な行動はないか。県内では肥満の子どもが増えているということで問題になっているが、本校の場合はどうか。防犯カメラの問題はないか。また、モジュール授業について、その背景は何なのか。
- A クリーニングや修繕については問題ない。上級生は下級生に優しく接していてそのような光景は見当たらない。2割弱が肥満傾向にある。防犯カメラについては、カメラは4か所に設置してあるが、録画は手動である。モジュール授業については、年の半分は毎日6時間授業となっており、児童や

担任教師も負担となっている。課題も考えられることから、現在は試行段階である。

Q 通学路の点検はどうなっているか。自転車登校の現状はどうなっているか。

A 通学路の点検は職員で実際に見て回り、点検している。自転車通学は3年生以上で堤地区、新開、新寺地区から数名いる。

Q ポプラの樹はどうなっているか。

A ポプラの樹は剪定して上の部分を切った。

Q 特別支援教育の現状について説明願いたい。モジュール授業によって得られる授業数及び昨年度の授業時数消化率はどのくらいだったか。5年後の児童数の推移はどうか。

A 特別支援学級は4学級14名の在籍である。他に通級教室があり、16名が通っている。モジュール授業の完全実施によって、1,2年生は週2回の午前授業ができ、6年生は週に1回は5時間授業が可能になる。今後、30名以上の子どもが入学することは見込めない。

(2) 学校の施設設備等の現況について(現地確認)

- 一部雨漏りしている箇所については、来年度の大規模改修の際の際に合わせて修繕したいと考えている。
- 学校司書の補助員は週2回来校して、図書活動を行っている。昨年度は50冊ほどを購入している。図書室にもエアコンが設置された。
- トイレが特別きれいである。業者の方がほぼ毎日来て掃除してもらっている。
- 一つの教室だけ黒板の向きが逆になっている。理由は分からない。改修するには多額の経費が掛かるということで断念した。
- 理科室と図工室はエアコンが設置されていない。
- エレベーターが設置してあるが、昔、肢体不自由の児童が入学したときに設置したと聞いている。
- 体育館は令和4年3月の地震で1年間使用できなかった。構造体の鉄筋の不良個所の修繕と一緒にフロアも改修した。しかし、雨漏り箇所は何か所もある。
- 校舎北側は増築したもので、地震が来ると隙間が出ることもある。
- 自転車の乗り方について指導をしてもらいたいというような意見がある。
- マスク生活に慣れてしまっているのでマスクは必需品になっている。真夏日でさえ、マスクを外さない子どもが多く「はずしなさい」と指導をしたことがあった。しかし、強制もできないため難しいところである。マスクをしているために、子どもの名前を覚えるのに半年かかった。

8 まとめ

- ①校舎及び付帯施設等の耐用年数を考慮しつつ、修理修繕を計画的に行い、子どもたちの教育環境の拡充に一層の努力するよう当局に求めていく。
- ②学力向上については、今後も努力を続け「学力の高い大河原の子どもたち」を維持してもらおう。
- ③町の小中学校の不登校者率が高い現状から、小学校段階からの不登校対策が重要と思われる。各学校及び教育委員会には効果的な方策が求められる。
また、いじめの認知件数については各学校とも全国平均の数値より大幅に下回っている数値になっており、それが現状を正しく反映しているものか、各校の検証が必要と思われる。
- ④学校職員の「はたらき方改革」については、仕事上の特殊性があり難しい課題はあるものの、今後ともその取り組みを前進してもらいたい。
ただし、この取り組みによって教員の仕事に対するモチベーションが消失されないよう留意してもらいたい。
- ⑤中学校の部活動の地域移行問題に関しては、当事者である生徒及び保護者の意見等を汲みながら、慎重かつ丁寧な説明を行いながら進めてもらいたい。